# 主体的に学ぶ子どもの育成

―教師の働きかけの工夫を通して一(3年計画の1年次)

校長 三角 浩司

#### 1 研究主題について

本校では、教育目標である「たくましく」心美しく」の具現化のために、「主体的に学ぶ子どもの育成」という主題で、全教科において研究を進めてきた。昨年度までの研究により、国語の授業では、「筆者の考えが書かれている文はいくつあるのか。」について導入場面で問いの共有ができる課題提示をした。算数の授業では、式や答えを予想させ、自分の立場を明確にさせたりすることで、主体的に解決へ向かうことができるように工夫した。また、自力解決ができるようにペア学習やグループ学習などの場を工夫することで、見通しをもって考える児童が増えるなどの成果が見られた。一方で主体的に解決へ向かう手立てとして、教師の働きかけの工夫が課題としてあげられた。

そこで、今年度は、問題解決的な学習を通して、児童が課題解決に向けて主体的に学ぶことができるように、意欲を高める課題提示や教材、発問の工夫だけでなく、展開場面でより主体的に取り組むことができるように、解決に向けた見通しや対話の場づくりなど教師の働きかけの工夫を充実させたい。児童に「あれ、どうしてかな。」から「答えを出したい。分かりたい。知りたい。」と思う課題意識をもたせる工夫や「何を学習したのか。」を明確にした振り返りを行わせることで、自らの学びについて客観的に捉え、次への問いにつなげることができると考える。

今年度の学校目標は、「よさを生かし、よく考えて取り組む子どもの育成」で、学びづくりの重点 施策は、子どもたちの確かな学力の向上(基礎・基本の内容の定着)である。児童が自ら考えたい、 調べてみたいと主体的に課題に取り組む授業を重ねることで学力の定着を図っていきたい。

## 2 研究のねらい

児童が自ら課題を見つけ、課題解決に向けて主体的に学ぶことができるようにするために、教材や発問等の「しかけ」による問いの共有や見通しのもたせ方、解決に向けた場の設定をどのように工夫 すればよいか、問題解決的な授業実践を通して明らかにする。

# 3 研究仮説

「あれ、どうしてかな。」から「答えを出したい。分かりたい。知りたい。」と思う課題意識をもたせる工夫や「どのようにすれば解決できるか」が明確になる見通しのもたせ方の工夫、子ども同士の考えをつなぐ教師の働きかけの工夫(ファシリテーション能力)を通して、主体的に学ぶ子どもを育成できる。

#### 4 研究の内容

(1) 児童が問題を発見し、主体的に問題解決にむかうために教師のはたらきかけの工夫

(導入から課題設定まで)

- ・ 教材の工夫
- ・発問の工夫等
- \* 「思考のズレ」がうまれるような問い→主体的に課題に関わる。
- =場のデザインスキル~場をつくり、つなげる~目的、終着点を明確にする。
- (2) 見通し、解決に向けた場の設定の工夫(見通し・追究・解決まで)
  - ・考えをつなぐ教師のはたらきかけの工夫(結果の見通し、方法の見通し)
  - =対人関係のスキル(つなぐ、うけとめ返す)課題解決の見通しをもたせる工夫
  - ・対話的活動(個・ペア・グループ・全体)など
  - =構造化のスキル~かみ合わせ、整理する~多様な視点から考える場の設定
  - ・「何を学習したのか」が明確になる振り返り

#### 5 研究の経過

## (1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	授業研究       全体会等
7	1 9	○第1回研究授業・協議(要請訪問 2学年 国語)授業者 教諭 三上 泉美
		題材名 「あったらいいな、こんなもの」
		助言者 八戸市教育委員会教育指導課 主任指導主事 中村 美穂 先生
		・「あったらいいな」と思うものについて、友達と質問し合う活動を通して、そ
		れぞれが考えた道具についてより詳しくすることができる。
9	2 7	○第2回研究授業・協議(3学年 算数)授業者 教諭 田名部 聡子
		題材名 「あまりのあるわり算」
		・問題場面のあまりの意味に着目し、あまりを切り上げて処理する問題を理解し、
		活用できる。
1 1	1	○第3回研究授業・協議(5学年 国語)授業者 教諭 向中野 也美
		題材名 「たずねびと」
		・爆弾によって引き起こされた状況を想像することを通して、その悲惨さを理解
		し、原爆に対する自分の考えを書くことができる。

# (2) 一般研修

月	日	内容・講師 等
5	2 4	・特別支援教育(自立活動授業解説、個別の支援計画作成のしかた) 教諭 淡路 美樹子(青潮小学校 さくら学級担任)
6	2 1	・体育実技講習 八戸市教育委員会 教育指導課 主任指導主事 竹井 亮 先生
8	2 3	・1人1台端末活用研修会①(授業の中での実践例発表) 「教材テストを使っての基礎基本の習熟」など 教諭 菅原 夕紀子 「スライドづくり演習」 教諭 坂本 健一 「ドリル教材のQRコードを使った基礎基本の習熟」 教諭 粟津 宏治 「導入や振り返りにおける Google formの活用・実践」 教諭 中川原 泰文
1 1	2 9	・心のケア支援事業「気になる子への支援と対応」 講師 八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 教授 野口 和也 先生
1	3 1	・1人1台端末活用研修会②(授業の中での実践例発表) 「教育関係アプリの活用」(カフート、キャンバ、フリップ、パドレット) 教諭 中川原 泰文

#### 6 研究の成果

- (1) ・「しかけ」により芽生えた問いや必要感を、問い返しによる焦点化、立場の表明による視覚化を行うことで、児童共通のめあてへと高めることができた。
  - ・ゴールまでの見通しを提示することで意欲的に問題解決に向かうことができた。
- (2) ・「何を話し合うのか」を明確にしてペアでの活動を行うことで、活発な対話的活動ができた。
  - ・課題解決に向けた話合いを重ねることで、まとめや振り返りを行うことができるようになってきた。

# 7 研究の課題

- (1)・明確な意図をもって立場の表明や導入の「しかけ」を行うために一層の教材研究が必要である。 (発問の吟味、資料提示のタイミング、誤答の提示など解決したい課題に合わせたものにする。)
- (2) ・問い返したり、意見を分類・整理したりするなど働きかけを工夫することや思考の変容を視覚化することで、「分かった、できた、身に付いた」を実感できる振り返りをする必要がある。 (記入者 中川原 泰文)